

ニホンライチョウの新規導入について

井川 阿久里

ニホンライチョウ (*Lagopus muta japonica*) はライチョウ (*Lagopus muta*) 亜種のうち最も南に分布し、南アルプスなど、国内 5 カ所の標高 2,200~2,400m以上の高山帯に生息する。温暖化などによる生息環境の悪化により生息数が減少、環境省第4次レッドリスト絶滅危惧ⅠB類に分類される国の特別天然記念物である。

平成 26 年に第一期ライチョウ保護増殖事業実施計画が策定され、生息域外、生息域内での保全活動が実施されている。令和 2 年には第二期の実施計画が策定、域外保全においては更なる飼育繁殖技術の向上に加え飼育下保険集団の創出や生息域外保全の体制拡充、普及啓発の推進などに取り組むことが明記されていて遺伝的多様性を考慮した飼育下個体群の維持のため飼育園館を増やすことが必要となっている。

金沢動物園では、シロイワヤギの屋内展示場が冷房による温度管理が可能であるため、スバルバルライチョウの展示を行っており、ニホンライチョウも飼育可能であるということから、新規導入が決まった。ニホンライチョウの飼育繁殖においては感染症などを防ぐため高度な衛生管理基準が設けられているが、当園は衛生緩和園として衛生管理を簡略化しニホンライチョウの展示と来園者への普及啓発を目的とした飼育を行う。

ニホンライチョウの飼育開始に伴い、屋内展示場とその観覧通路の改修工事を実施した。展示場は奥行きがあり、体の小さいライチョウの展示には適さないため、展示場の前半分を展示場、後半分を飼育スペースとして利用し展示効果の向上を図った。また、従来展示場前の壁画を塗り替え、ニホンライチョウの生態や現在の野生での問題、動物園での域外保全の取り組みについてのイラスト付きの解説看板を設置し普及啓発に取り組んだ。観覧通路だけでなく通行する多くの人へ掲示物を見てもらえるよう工夫を行い、来園者の動向調査を行った。新規の看板を活用している人の割合は通行した来園者の約 8%となり十分な普及啓発ができているとは言い難い結果が判明した。今後は観覧通路の導線整理や導入部の看板を新設するなど、来園者の興味を引く展示となるよう検討していきたい。